

学修成果に関する調査結果報告 —2018年度入学学生の4年間の状況把握と時系列比較—

本資料は、本学の学修成果の一部として、入学年度別・学年別の単位取得の状況と成績（GPA）の状況と、本学が定める「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」※の自己評価結果について報告します。

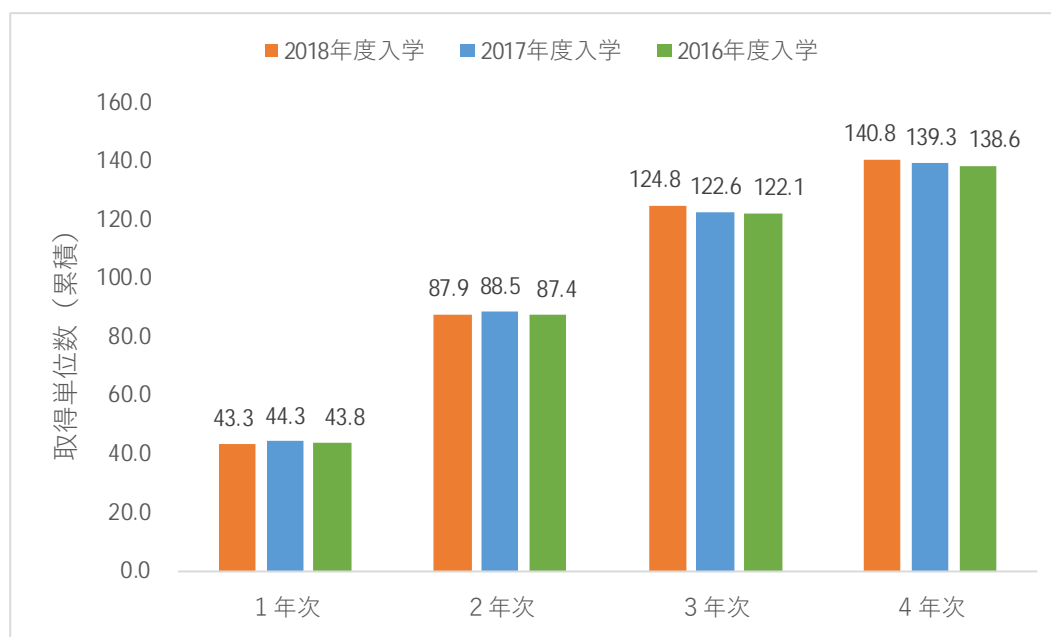
※「日本福祉大学スタンダード」は、本学学生すべてに身に付けてほしい資質・能力を「日本福祉大学スタンダード＝4つの力（共感する力、見据える力、伝える力、関わる力）」として示しています。

1 単位取得の状況

2018年度入学学生の年次別の取得単位数（累積）の平均をみると、1年次に43.3単位、2年次では87.9単位、3年次では124.8単位、4年次では140.8単位となっています。

図表1 入学年度学生別の単位取得状況（累積） （単位）

	1年次	2年次	3年次	4年次
2018年度入学	43.3	87.9	124.8	140.8
2017年度入学	44.3	88.5	122.6	139.3
2016年度入学	43.8	87.4	122.1	138.6



図表2 2018年度入学学生の学年別単位取得（累積）の状況

経年的に年次別の単位取得数（累積）をみると、入学年度による大きな差（変化）はみられません。

2 GPA (Grade Point Average) の状況

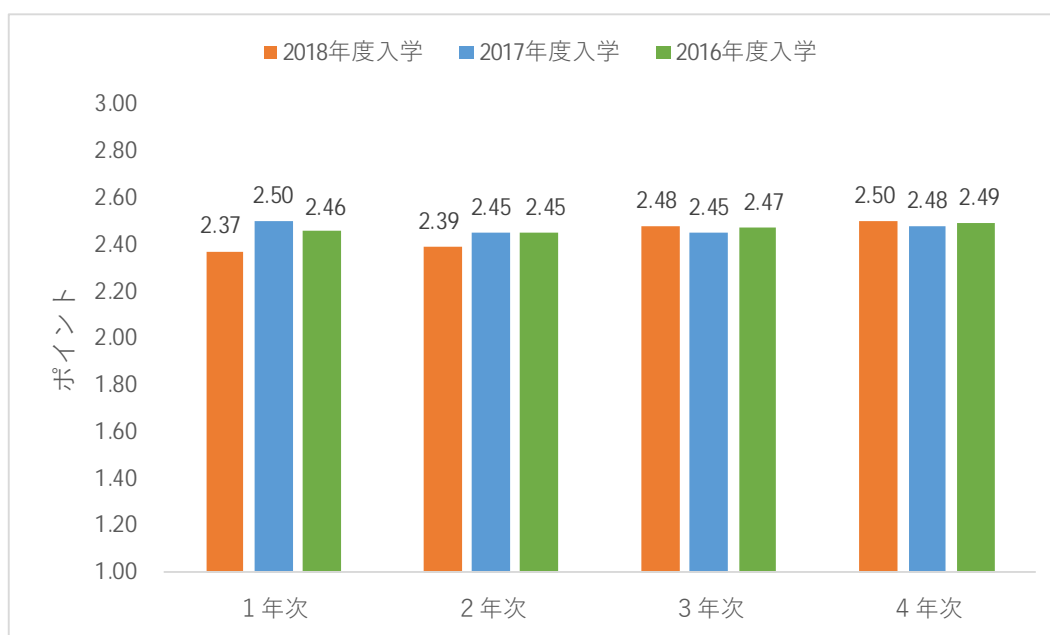
本学における科目ごとの成績評価は、主にS・A・B・C・Dによって分類され、SからCが合格、Dは不合格となります。また、成績評価指標としてGPA (Grade Point Average) 制度を導入し、大学での学び全体の学習到達度を1つの数値で表しています。

GPA とは、ある期間に履修した各科目の成績評点に、その科目の単位数を乗じた数値の総和を、総履修単位数で除した数値を指します。これにより、各科目の評価をまとめて1つの成績指標として表すことができます。なお、GPA の基準である評価ごとのポイントは、Sが4ポイント、Aが3ポイント、Bが2ポイント、Cが1ポイント、それ以外は0ポイントです。

以上のように算定されたGPA について、2018年度入学学生をみると、1年次では2.37ポイント、2年次で2.39ポイント、3年次で2.48ポイント、4年次では2.50ポイントとなっています。

図表3 入学年度学生別のGPA 平均(累積) (ポイント)

	1年次	2年次	3年次	4年次
2018年度入学	2.37	2.39	2.48	2.50
2017年度入学	2.50	2.45	2.45	2.48
2016年度入学	2.46	2.45	2.47	2.49



図表4 2018年度入学学生の学年別GPA(累積)の状況

経年的に年次別のGPA(累積)をみると、入学年度による大きな差(変化)はみられません。

3 「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」の状況（2018年度入学学生）

（1）「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」の解説

本学では毎年、「学生アンケート（在学生アンケート）」や「卒業時アンケート」を活用し、「日本福祉大学スタンダード（4つの力）」（以下「4つの力」と示す）について、学生による自己評価を実施しています。

この「4つの力」は、本学学生すべてに身に付けてほしい資質・能力であり、「共感する力」「見据える力」「関わる力」「伝える力」から構成されています。さらに、この「4つの力」は、身に付けてほしい力ごとに4つの設問が設定されています。（図表5）

図表5 「4つの力」の設問

区分	設問項目
共感する力	<ul style="list-style-type: none">・ 他者のしあわせについて考えることができる・ 他の人からは物事がどのように見えるのだろうかと思像し、理解しようとする・ 福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる・ 本学の諸先輩の取組みを知り、受け継ぐことができる
見据える力	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている・ 社会に出て自立するために、何をしなければならないのかを知っている・ 自分は「地域」の一員であることを自覚している・ 本学の「建学の精神」を知っている
伝える力	<ul style="list-style-type: none">・ 相手のしぐさから意見や考えを読み取ることができる・ 筋道（すじみち）の通った主張をすることができる・ 人の話や文章の要約を適切にできる・ さまざまな道具を使い効果的なプレゼンテーションができる
関わる力	<ul style="list-style-type: none">・ 大学での学びや課外活動と自らの進路を結びつけて考えられる・ 自分の将来の目標を実現するために、すべきことがわかっている・ グループ活動をするときに、自らリーダーシップをとることができる・ 自らフィールドワークを企画したり、コーディネートしたりすることができる

上記設問に対して、それぞれ「当てはまる（5点）」～「当てはまらない（1点）」の5件法で回答を求め、各力の得点は1～5点の範囲を取ります。

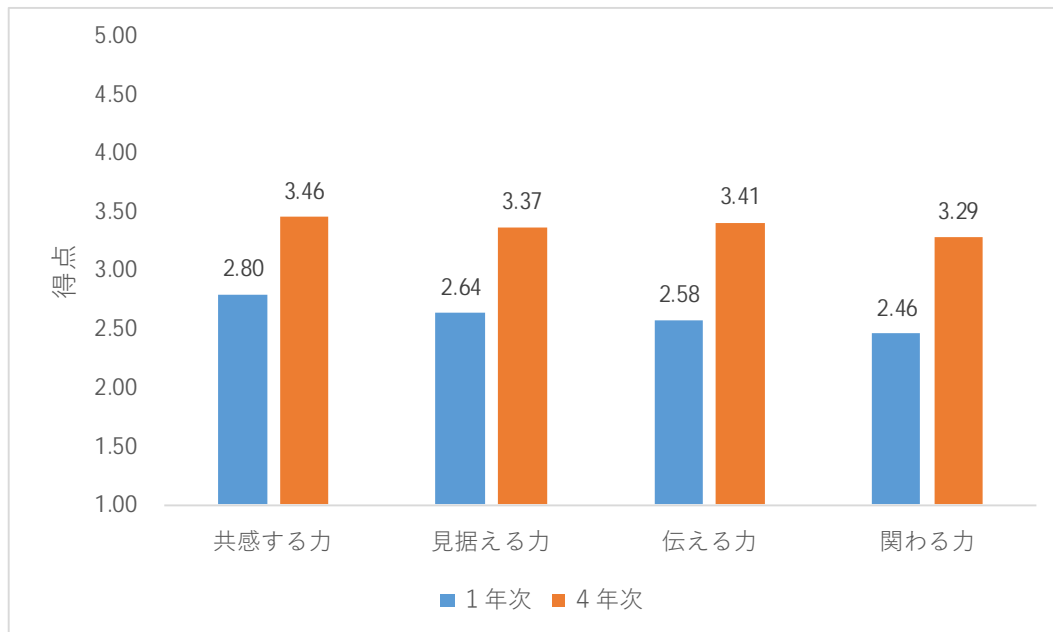
(3) 「4つの力」得点の状況

2018年度入学学生を対象として、年次別の「4つの力」得点の結果を示します。以下に提示するデータは、2019年度春に実施される「学生アンケート（在学生アンケート）」の結果を「1年次」として示し、2021年度の「卒業時アンケート」の結果を「4年次」として提示しています。

2018年度入学学生の「4つの力」別の1年次と4年次の得点を見ると、「共感する力」では、1年次で2.80であったものが、4年次では3.46と0.66ポイント上昇しています。「見据える力」では、1年次で2.64であったものが、4年次では3.37と0.73ポイント上昇しています。「伝える力」では、1年次で2.58であったものが、4年次では3.41と0.83ポイント上昇しています。「関わる力」では、1年次で2.46であったものが、4年次では3.29と0.83ポイント上昇しています。

図表6 「4つの力」得点の状況 (点)

	共感する力	見据える力	伝える力	関わる力
1年次	2.80	2.64	2.58	2.46
4年次	3.46	3.37	3.41	3.29



図表7 「4つの力」得点の変化

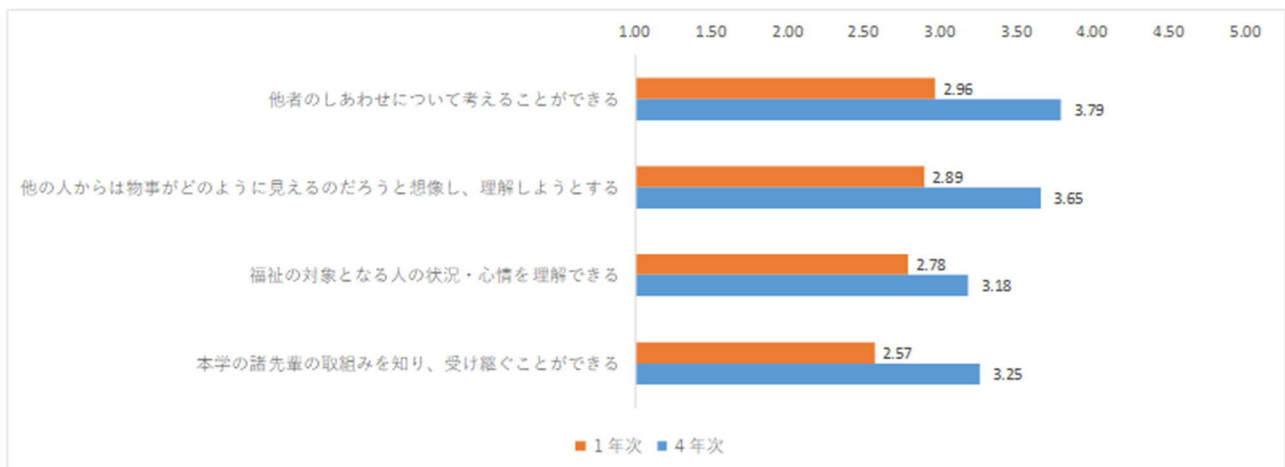
(3) 「4つの力」別の設問項目の状況

先述の通り、「4つの力」は、それぞれ4つの設問項目から構成されています。以下に、「4つの力」別に設問ごとの状況について示します。

1) 共感する力

「共感する力」に関する詳細な調査項目をみると、1年次の得点は、「他者のしあわせについて考えることができる」は2.96、「他の人からは物事がどのように見えるだろうと想像し、理解しようとする」は2.89、「福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる」は2.78、「本学の諸先輩の取組みを知り、受け継ぐことができる」は2.57でした。

同様に4年次の得点をみると、「他者のしあわせについて考えることができる」は3.79（1年次より0.83ポイント上昇）、「他の人からは物事がどのように見えるだろうと想像し、理解しようとする」は3.65（1年次より0.76ポイント上昇）、「福祉の対象となる人の状況・心情を理解できる」は3.18（1年次より0.4ポイント上昇）、「本学の諸先輩の取組みを知り、受け継ぐことができる」は3.25（1年次より0.68ポイント上昇）でした。

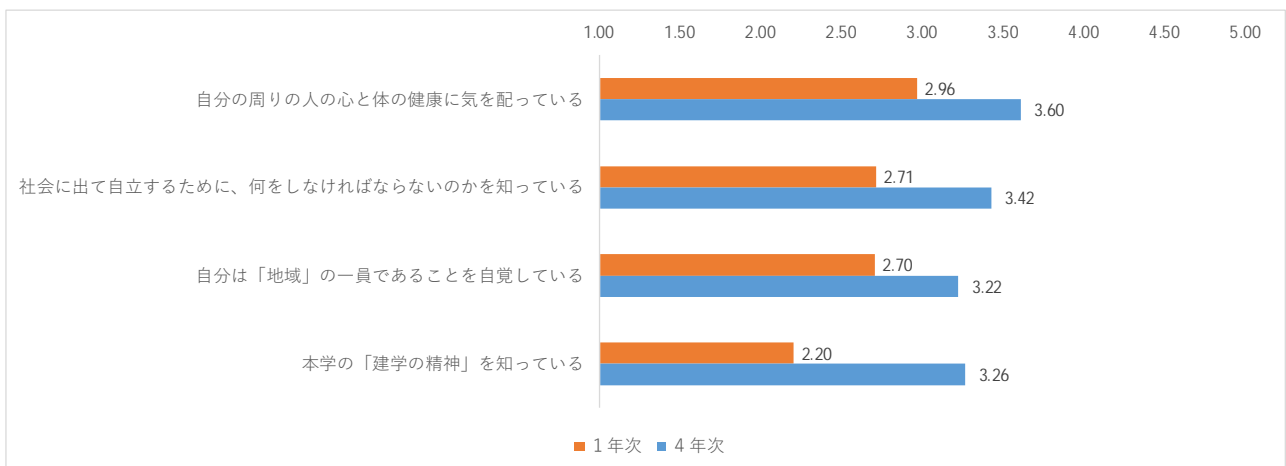


図表8 「共感する力」の詳細項目得点の状況

2) 見据える力

「見据える力」に関する詳細な調査項目をみると、1年次の得点は、「自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている」は2.96、「社会に出て自立するために、何をしなければならないのかを知っている」は2.71、「自分は「地域」の一員であることを自覚している」は2.70、「本学の「建学の精神」を知っている」は2.20でした。

同様に4年次の得点をみると、「自分の周りの人の心と体の健康に気を配っている」は3.60（1年次より0.64ポイント上昇）、「社会に出て自立するために、何をしなければならないのかを知っている」は3.42（1年次より0.71ポイント上昇）、「自分は「地域」の一員であることを自覚している」は3.22（1年次より0.52ポイント上昇）、「本学の「建学の精神」を知っている」は3.26（1年次より1.05ポイント上昇）でした。

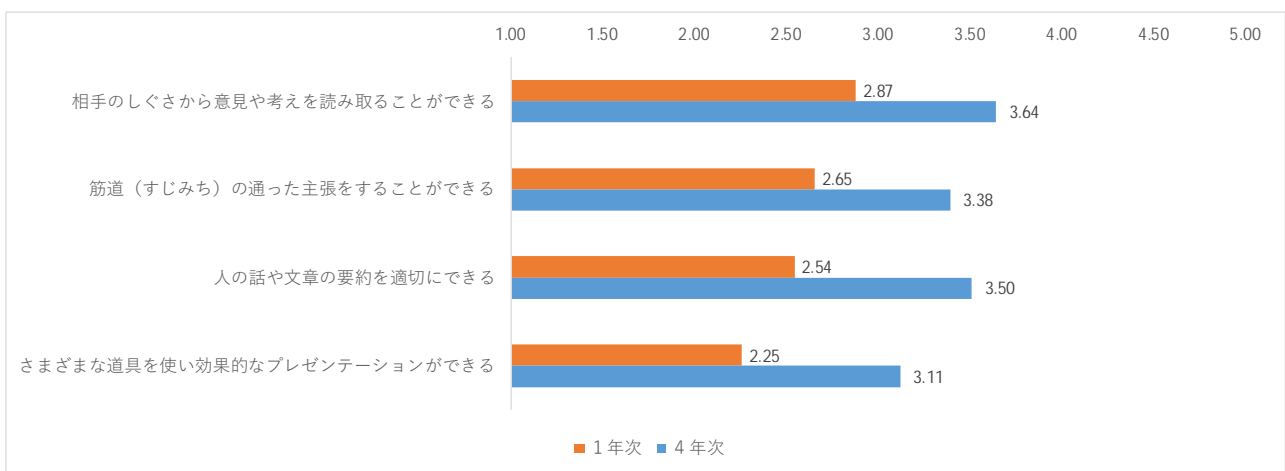


図表9 「見据える力」の詳細項目得点の状況

3) 伝える力

「伝える力」に関する詳細な調査項目をみると、1年次の得点は、「相手のしぐさから意見や考えを読み取ることができる」は2.87、「筋道（すじみち）の通った主張をすることができる」は2.65、「人の話や文章の要約を適切にできる」は2.54、「さまざまな道具を使い効果的なプレゼンテーションができる」は2.25でした。

同様に4年次の得点をみると、「相手のしぐさから意見や考えを読み取ることができる」は3.64（1年次より0.77ポイント上昇）、「筋道（すじみち）の通った主張をすることができる」は3.38（1年次より0.73ポイント上昇）、「人の話や文章の要約を適切にできる」は3.50（1年次より0.96ポイント上昇）、「さまざまな道具を使い効果的なプレゼンテーションができる」は3.11（1年次より0.86ポイント上昇）でした。

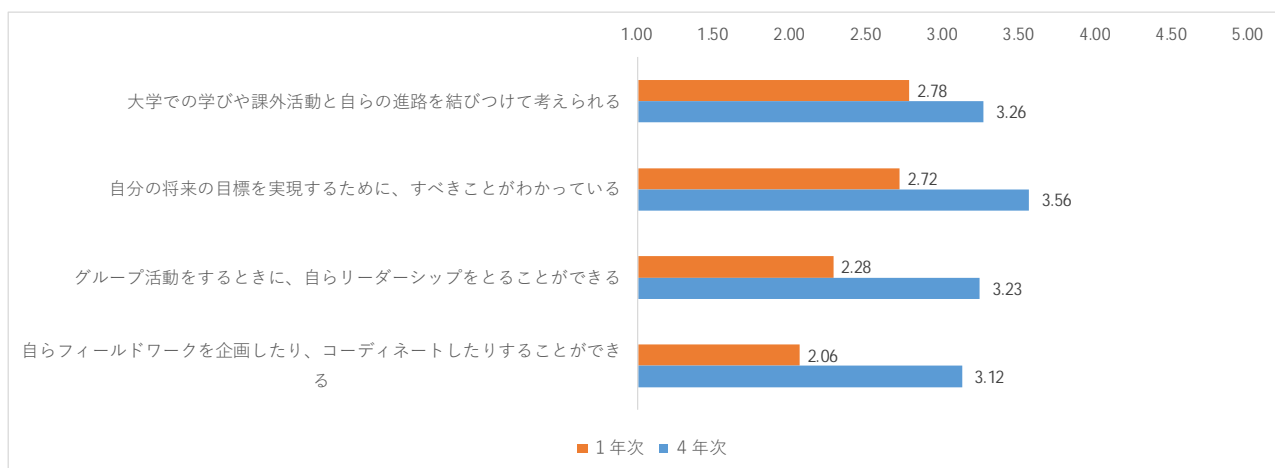


図表10 「伝える力」の詳細項目得点の状況

4) 関わる力

「関わる力」に関する詳細な調査項目をみると、1年次の得点は、「大学での学びや課外活動と自らの進路を結びつけて考えられる」は2.78、「自分の将来の目標を実現するために、すべきことがわかっている」は2.72、「グループ活動をするときに、自らリーダーシップをとることができる」は2.28、「自らフィールドワークを企画したり、コーディネートしたりすることができる」は2.06でした。

同様に4年次の得点をみると、「大学での学びや課外活動と自らの進路を結びつけて考えられる」は3.26（1年次より0.48ポイント上昇）、「自分の将来の目標を実現するために、すべきことがわかっている」は3.56（1年次より0.84ポイント上昇）、「グループ活動をするときに、自らリーダーシップをとることができる」は3.23（1年次より0.95ポイント上昇）、「自らフィールドワークを企画したり、コーディネートしたりすることができる」は3.12（1年次より1.06ポイント上昇）でした。



図表11 「関わる力」の詳細項目得点の状況

【参考資料】 卒業論文提出率

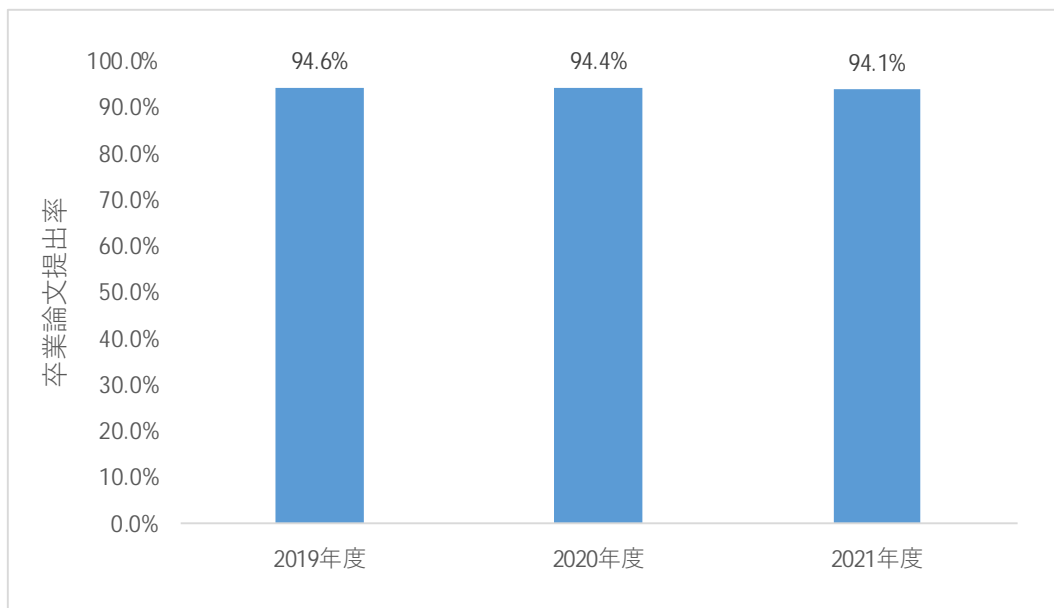
学修成果に関連すると考えられる卒業論文提出率について参考資料として提示します。

2021年度の本学における卒業論文の提出は必修となっている学部は4学部あり、これらの学部の4年次在籍学生数は727人でした。その中で、卒業論文を提出した学生数は684人であり、2021年度の卒業論文提出率は94.1%となっています。

下記の（図表12 卒業論文提出率）に示すように、2019年度から2021年度の3か年での卒業論文提出率は約94%、ほぼ同水準となっています。

図表12 卒業論文提出率

	在籍学生数(4年次) (人)	提出学生数 (人)	在籍学生数に対する提出率 (%)
2021年度	727	684	94.1
2020年度	771	728	94.4
2019年度	571	540	94.6



図表13 卒業論文提出の状況